

文化・芸術

「読書をする婦人」

1941年（ろ、ペン、墨、水彩・紙
32.5cm×26.9cm、個人蔵

松本竣介（1912〜48年）

着物姿で椅子に腰かけ、くつろいだ様子で読書をしている婦人。その後ろには籐（とう）椅子が一脚描かれています。

この婦人のモデルは、松本竣介の妻、禎子（ていこ）といわれています。竣介は1936年、24歳のときに松本禎子と結婚。これを機に松本姓となりました。

現在開催中の企画展において竣介の900冊に及ぶ蔵書を紹介していますが、禎子夫人も英文学者の父を持ち、幼少期から本に親しんでいたといえます。今でこそ着物で読書をする姿はともモダンに見えますが、当時は家で着物を着ることが珍しくありませんでした。

籐椅子も、現存してはいませんが自宅やアトリエに置かれていたと、竣介の次男であり建築家の松本莞（かん）さんが当時を振り返り語っています。本作は、竣介にとつての日常の一部を描いたといえるでしょう。

（池田）

〈名画の扉〉

大川美術館企画展から

